

Vol.16  
2023 春号

# SUAC 広報誌 碧い風



## 浜松と家康

ミニ講義&クロストーク／徳川家康の足跡を辿る

復活！碧風祭 開催レポート

// SUAC TOPICS //

海外協定校・交換留学再開

「東アジア文化都市2023静岡県」ロゴマーク採用

国際文化学科Webサイトリニューアル

「スペインの風ーフラメンコの音楽と舞踏ー」開催

「学生生活調査2022」結果公開

Featured topic  
教員研究紹介

シユルレアリスムとの  
出会い

文化政策学部国際文化学科  
中田健太郎 講師

静岡文化芸術大学広報誌

碧い風 Vol.16

2023年3月1日発行

発行／公立大学法人静岡文化芸術大学

〒430-8533 静岡県浜松市中区中央2-1-1

TEL.053-457-6111(代美) FAX.053-457-6123 <https://www.suac.ac.jp/>



## SUAC'S OB

卒業生の活躍

### PROFILE

株式会社静岡新聞社 地域ビジネス推進局  
静岡ビジネスセンター 生活情報部

よしおか さち  
吉岡 紗知さん

□ 2008年 文化政策学部文化政策学科 卒業  
静岡県静岡市出身。2008年、文化政策学部文化政策学科卒業。株式会社静岡新聞社に入社し、新聞・テレビ・ラジオなどの広告営業を担当。結婚・出産を経て、現在は高校から社会人までのキャリア教育や採用ビジネス業務に携わる。

- ▼ 新卒のかんづめ  
<http://shinsotsu.at-s.com/>
- ▼ しずおか仕事図鑑 (2023年4月公開予定)  
<https://www.shizuokashigoto.com/index.html>

### 求職者と企業を結び、 人生設計やキャリアデザインのお手伝い

静岡県静岡市で生まれ育ちました。小学校から高校までは剣道一筋。正直、高校3年の部活引退まで大学進学のことには真剣に考えていませんでしたが、当時開学して間もなかったことや同じ高校にSUACへ入学した先輩がいたのがきっかけで、夏休みにオープンキャンパスに参加。きれいな校舎にひとめぼれしました(笑)。まだ大学で何を勉強したいのかがはっきりしていなかったので、幅広い分野を学べる文化政策学科を選びました。1年生の時は自分の中での「何か」を見つけるため、いろいろな分野の授業を受け、図書館司書資格課程も履修していましたね。根本先生、坂本先生、阿藤先生、池村先生などの授業が印象に残っています。経営学・中小企業論が専門の坂本光司先生のゼミに所属し、ゼミ仲間と実際に企業を訪問してインタビューを行い、「社員満足度(ES)」の調査を行いました。学生ではなかなかお話を聞くことのできない企業の方々とお会いすることが出来たのは、とても貴重な機会だったと振り返ります。

卒業後に入社した静岡新聞社では、新聞の発行だけでなく地域のビジネスを支援する業務も行っています。現在の配属先では、高校生・大学生などの新卒就活から社会人の転職まで、人生のターニングポイントで必要となる就職サービスを提供。私は、静岡県の仕事の魅力や求職者と企業を結び付けるための情報を提供するWebサイトのリニューアル、事業展開を担当しています。昨今、求職者が活用する情報提供サービスは多様化していて、今まで通りのサービスを提供しているだけでは、求職者にも企業にも満足していただけません。さらに県内の知名度が高い企業だけでなく、あまり知られていない優良な中小企業も知ってもらえるように、リニューアルサイトでは企業検索の方法などで工夫を加えようと検討中。条件だけで企業を探すので

はなく、個人の働き方にフィットした企業を見つけてほしいと思います。就職活動の流れも変わる中で、高校生や大学1年生から少しずつ自分の将来を考えられるような仕掛けとして、イベントなどでその機会を作っていきたいですね。より良いサービスを目指して日々、職場の仲間たちと会議を重ねているところです。自分の学生時代の就活を振り返っても大変だった思い出がありますが、内定をもらうための苦しい就活は辛いですね。そうではなく、自分の人生設計やキャリアデザインを考えながら、就職の先のやりたいことの実現のために前向きに就職活動に取り組んでほしいと思います。

プライベートでは結婚と出産を経て、産休育休から復帰したところ。時短勤務制度を活用しながら仕事と育児に奮闘しています。自分が生まれ育った大好きな街で、地域のために仕事ができる喜びを感じながら、いつかは好きなスポーツに携わる業務にも挑戦したいと思い描いています。



ゼミメンバーでテーマパーク運営会社を訪問

編集後記

2017年大河ドラマ「おんな城主 直虎」に続き、2023年は「どうする家康」の舞台として浜松に注目が集まっています。人生の多くの時間を三河・遠江・駿河の地域で過ごした家康公。歴史をあらためて振り返り、この地域の文化の豊かさを感じました。さて、皆さんにとっての家康像は？

広報誌に対するご意見、ご感想をお待ちしています。第17号は2023年10月の発行予定です。

私たちは歴史から何を学び、何を得る？

# 浜松と家康

ミニ講義 & クロストーク

浜松城を築き、29歳から45歳まで浜松で過ごした徳川家康。本学のある浜松市内には家康にまつわる史跡や伝承が数多く残っています。今回は、歴史学、観光学、渡航医学を専門とする宮崎千穂先生による特別ミニ講義の様子をお届けします。家康と静岡や浜松との関わり、観光文化や温泉、薬などについて、学生と一緒に学びましょう。



国際文化学科4年  
屋良泉岐さん

文化政策学科2年  
鈴木郁也さん

文化・芸術研究センター  
宮崎千穂 准教授

**宮崎**：お二人の徳川家康のイメージは？  
**鈴木**：私は浜松出身で、遠足は浜松城でしたし、常にごくからに「家康」の文字が目に入る環境だったので身近な存在です。  
**屋良**：私にとっては教科書の中の重要人物で、身近な感覚は全くありませんでした。大学進学のため沖繩から浜松に来て、家康の存在を感じる機会が増えました。  
**宮崎**：静岡から遠い地域では、教科書の中の人かもしれませんね。家康は人質時代が長く、こ浜松にいた時期も武田・北条・今川・織田と、強い戦国武将達に囲まれていたのが苦悶のイメージもありそうですね。浜松で家康ゆかりのものというたら、何か思い浮かぶのはありますか？  
**鈴木**：例えば「銭取」などの地名です。三方ヶ原の戦いで武田軍から逃げる時、家康が餅を食べていたら追っ手が来て、慌ててお金を払わずに逃げたら、お店のお婆さんが走って追いかけたという言い伝えが残っています。僕は、家康に追いつけたお婆さんがすごいなと思いました(笑)  
**宮崎**：浜松には家康にまつわるエピソードがいろいろ残っていますよね。遠州鉄道・遠州病院駅のすぐ傍に、二代將軍・徳川秀忠の産湯に使用されたと言われる井戸が史跡として残っています。秀忠は、徳川家の正史の『徳川実記』では浜松のお城で生まれたことになっていますが、地元浜松では別邸で生まれたという説もあります。屋良さんが触れてきた教科書の中の「歴史」は多くの歴史像のうちのひとつかもしれませんが、歴史のご当地には、公的な文書にはみられないような昔話や伝承が残っていて面白いですね。

## 歴史上の超有名人・徳川家康ってどんなイメージ？

P.01 Pick Up Student

P.02-04 [特集] 浜松と家康  
ミニ講義 & クロストーク

P.05 徳川家康 略年表

P.06 SUACさん・ぼ 家康ゆかりのスポット

P.07-08 SUAC TOPICS

P.09 復活! 碧風祭 開催レポート

P.10 教員研究紹介vol.8 中田健太郎講師

P.11 浜松で 世界で 頑張る学生たち

P.12 キャリア支援室より

P.13-14 退職教員紹介

## 自らの成長を振り返り、 新たな挑戦への勇気となる

pick up student



アバス マリ  
ABAS MALLIEさん

文化政策学部 国際文化学科3年  
静岡県立浜松江之島高校出身

アバスさんのルーツはフィリピンです。中学一年のときに来日し浜松で暮らしています。日本の生徒と同じように地元の中学校に通いましたが、サポート体制が十分でなく、適応にとっても苦労したそう。努力して日本語が出来るようになったとき、同じような立場にいる人たちにとってお手本になれるような人になりたいと思い、高校の時から日本語教室や在日外国人への支援を続けています。生徒が学校に通い続け日本に適応している姿は誇らしく思うというアバスさん。さらに自分がやってきたことや日本に来てからどれだけ成長できたかを振り返ることで、もっと頑張れるという気持ちが湧いてきます。その成果が自信となり、新しいことに挑戦する勇気につながっています。



SIBの活動として開催した映画「Whole」の上映会と座談会(共催:多文化・多言語教育研究センター)。監督をゲストに迎え、参加者からはたくさんの質問が挙がりました。

授業を受ける中で多文化共生や持続可能な社会(SDGs)に興味を深めたというアバスさん。学内外での挑戦を続けています。得意な語学を活かしてイベントなどで英語とタガログ語の通訳をしたり、世界的な規模で学ぶフィールドを求めて「2022年済州国際青年フォーラム」(2022年9月24日~12月11日)に参加したり。講義(座学)と学外活動(実践)を行き来しながら、学びを深めています。学内では本学に在学する定住外国人学生たちのグループSIB(Students with International Backgrounds)の代表としても活動。これまでリーダーシップを取る経験がなかったアバスさんですが、やってみたく手を挙げました。当事者としての視点をふまえた多文化共生について考えるイベントを開催しています。「SUACでの新たな出会いで新しい発見や興味を持ち、普段は話す機会がなくてつながることもないような人たちと関わることができた」と話すアバスさん。これからも自分のルーツと向き合いながら、前進していきます。



SIBの仲間たちとアバス マリさん(右端)。本学では多様な学生たちが共に学んでいます。

# 家康の多面性

## 歴史と観光のつながり

今日、史跡と呼ばれるものは、何かしらの対象が記念されたもので、関連の場所には説明板や記念碑が設置されていることが多いです。何かを記念するということは、ある歴史像を作ることです。そしてそれが人々に受け入れられていくと、歴史的事実であるかのように広く信じられていくこともあります。過去の出来事や人物にまつわるイメージはそのようにして作られていきます。それが歴史的事実かどうかはまた別のお話なんですね。

浜松で家康を記念した最近の事例をご紹介します。元城町東照宮にある、家康と秀吉の二公像です。こちらは浜松を盛り上げようとされていた地元の秋元健一さんと、歴史学者の磯田道史さんがコラボレーションして誕生したものです。現在の東照宮の場所には引間城というお城があり、家康が遠江に来て最初に住んだ場所です。秀吉もまた、少年の時にそこを訪れたといわれます。これらのことが磯田さんによって証明され、二人の天下人が武将としての第一歩を踏み出した運命の地であるという意味づけがなされたわけです。後世の人々にとって歴史上の人物や出来事は、そこから教訓を得

るものであったり、観光資源であったりと、何かしら使えるものによります。

## 信長も静岡県を訪れていた！家康流のおもてなし

家康・秀吉と来たら信長ですが、信長に静岡県でのエピソードがあります。天正10年の甲州遠征の折、信長は、行きは岐阜・長野県から山梨県に入って武田氏を攻めます。帰りは富士山を見ながら南下して静岡県に入り、浅間大社や駿河国府中に立ち寄り、今川氏の旧跡なども視察します。この時家康は信長から駿河を貰い受けており、駿河・遠江を通る間は、ずつと信長の世話をしました。道を整備したり、休息所を建てたり、食事を出したりしたことが『信長公記』などに記されています。家康は莫大な費用をかけて信長をもてなしました。信長は家康のおもてなしに非常に感激したようですね。

浜山湖を渡る際は、今切に御座船を用意し一献あったと書かれています。飾られたお船で酒や肴を楽しみながら素敵です。例え、今切に家康から信長への振る舞いを体験できる御座船を用意したら新たな観光スポットが生まれるかもしれません。歴史学と観光とがつながりを持つこととなります。

## 薬を調合し、湯につかり、香を楽しむ

その後、今度は家康が信長のいる安土を訪れました。信長は家康とその家臣たちをもてなし、饗応の席を設けます。貴人と食事をする機会は滅多にありませんから、特に家臣らにとっては有難い時間だったことでしょう。この時の料理のメニューが残っていて「信長御膳」として復元されたことが話題になりました。これも歴史的事実を現代に活用した事例と言えます。

武士にとっては、外交も重要な仕事のひとつだったんですね。おもてなしの仕方によって相手はどう思っているかわかりますから、この時期の家康と信長はお互いに大切な人物だったのでしょう。

家康は現代風に言うところ「健康オタク」だったと知られています。史料から探ると、家康は薬や食への関心が高かったようです。彼は多くの優れた書物を集める蔵書家でした。とても勉強好きだったでしょう。もっともそれができたのは天下人ゆえでもあります。中でも『本草綱目』という中国明代の医学薬学書は、江戸期の医学・薬学を支えることになりました。久能山東照宮には、薬をすりつ

ぶす鉢と棒などの家康ゆかりの道具も所蔵されています。

家康は中国宋代の書物『和劑局方』も入手していて、それを見て自分で薬を調合していたと考えられています。水戸徳川家に伝わる薬壺に残っていた成分は、和劑局方の烏犀圓(うさいえん)と一致したようです。烏犀圓は家臣の大久保長安が痛風になった時、家康が与えた薬でもありました。家康が自分の体だけでなく、家臣の病気を気遣っていたのが興味深いですね。家康の人間味溢れる面でもあり、もしかしたら家臣を掌握する術だったのかもしれないですね。

家康は薬だけではなく、病氣療養中の人にあるものを贈りました。——それは温泉です。病氣の大名に、熱海温泉のお湯を5桶届けさせたことが記録に残っています。家康は熱海温泉をとっても気に入っていて、幼い息子達を連れて7日間逗留し、連歌を楽しんだといわれています。

それから、家康が夢中になったものにお香があります。家康は沈香を求めて、海外貿易を強く推し進めようとした。希少な香木を持っていることは権力者の象徴でもありました。お香は薬との関係も深いのですが、香木を嗅ぎながらリラクゼーション効果を感じていたのかもしれないですね。

# あなたは どう見る？

**屋良**：温泉を贈るなんてなかなか考えつかないアイデアですね。アイデアを実行できるのは家康だからこそできるのかなと思います。香木を求めて海外貿易をしようとしたり、歌を詠んだり、外交面でも文化面でも能力の長けた人なんだなと思いました。

**鈴木**：家康は天下を取っても油断したりせず、歳を重ねても貪欲に勉強していてもアクティブですね。

**宮崎**：そうですね、『徳川実記』といった

正史には勉強家や儉約家といった面が見えますが、この書は家康最良なところもあるので、他の史料も突き合わせて、家康像を探れるといいですね。

例えば、家康自筆の書簡を見ると、心の中が少し見える気がします。息子の義直が当時危険な病だった疱瘡に罹ったため、家康は大慌てで息子の元に帰ろうとしますが、そこに軽症の報せが届きました。家康はとても嬉しかったのでしょう。義直の母

親への書状に「めでたい」「うれしい」という言葉を何度も綴っています。

若い頃は長男の信康を切腹に追い込んだり、六男の忠輝を改易したりと厳しい面もありましたから、家康がどんな人かを一つの像で言い表すのは難しいですね。

**鈴木**：優しいお父さんの一面もあつたんですね。家康は普通のお父さんでいるために天下統をしたのかもしれないね。

**宮崎**：ある歴史的な出来事がどう人々に受

け入れられたか、どう解釈されたかは時代によっても異なるので、それを通じてそれぞれの時代の人々の考え方を探ることもできますね。

**屋良**：高校までは出来事を覚える歴史でしたが、大学ではこうして様々な切り口で歴史に触れることができるので、歴史の世界がぐっと広がりました。今日のお話を聞いて、改めて浜松の家康にまつわるスポットを訪れてみたいと思いました。



PROFILE  
愛知県名古屋市出身。2022年4月より本学に着任。古来の人の移動、旅によって生じてきた、情報や知、さまざまなものや病などの伝播や広まり、それらに対する人間社会の対応や人と人とのつながりについて研究しています。

文化・芸術研究センター  
宮崎千穂 准教授



PROFILE  
静岡県浜松市出身。ジャンル問わず、様々なことに好奇心を持っています。学科の友人達とは一人ひとり何かしらの趣味の共通点があるため、大学に行つて誰かと話すのが楽しい毎日。最近アニメの聖地巡礼など興味があります。

文化政策学科2年  
鈴木郁也 さん



PROFILE  
沖縄県那覇市出身。卒業では兵庫県宝塚市のお菓子の歴史について研究しました。自分の興味のある分野から歴史にアプローチでき、学生生活は様々な発見がありました。卒業後は浜松市内のIT会社に就職予定。

国際文化学科4年  
屋良泉岐 さん

# 略年表

天文 1542 (天文11年) 三河国岡崎城主・松平広忠の長男として岡崎に出生。  
 父・広忠と母・於大の方が離婚する。  
 人質として駿府・今川氏のもとへ向かう途中で連れ去られ、**尾張・織田氏**のものへ。  
 父・広忠が暗殺される。  
 今川義元の人質となり駿府へ移る。  
 今川氏の重臣・関口義広の娘・築山殿と結婚する。  
 弘治 1557 (弘治3年) 幕参りて岡崎に帰る。  
 長男・信康が誕生する。  
 永祿 1559 (永祿2年) **桶狭間の戦い**で織田信長が今川義元を討ち取る。  
 長男・信康が信長の娘・徳姫と婚約。名を元康から家康へと改める。**三河一向揆**を鎮圧へ。  
 東三河・奥三河を平定し、三河国を統一。徳川に改姓し、朝廷から三河守に任ぜられる。  
 遠江国へ進出し、武田信玄と駿河・遠江の分割を取り決める。  
 1568 (永祿11年) 1566 (永祿9年) 1563 (永祿6年) 1560 (永祿3年) 1549 (天文16年) 1547 (天文14年) 1544 (天文13年) 1542 (天文11年)

元龜 1570 (元龜元年) 織田信長の援軍で**姉川の戦い**に出陣し、浅井・朝倉軍を破る。岡崎より浜松へ移り、**浜松城**を築いて本城とする。  
 武田信玄が遠江国・三河国へ侵攻。  
 1572 (元龜3年) **一言坂の戦い**(現・静岡県磐田市)、**二俣城の戦い**(現・浜松市天竜区)で武田軍に敗北。  
 1573 (元龜4年) **三方ヶ原の戦い**(現・浜松市北区)で武田室町幕府が滅亡。本多忠勝らに長篠城を攻めさせる。  
 1574 (天正2年) 次男の秀康が誕生。母親は側室の於万の方。  
 1575 (天正3年) 織田信長と連合して、**長篠の戦い**で武田勝頼に勝利。  
 1579 (天正7年) 三男の秀忠(後の二代将軍・徳川秀忠)が誕生。正室・築山殿を殺害。嫡男・信康自害。  
 1581 (天正9年) 武田方の高天神城(現・静岡県掛川市)を攻略し、遠江を完全に平定する。  
 1582 (天正10年) **甲州征伐**。武田氏の滅亡で駿河国を得る。  
 信長の死後、甲斐・信濃を奪い、5カ国の大名となる。

慶長 1590 (天正18年) 北条氏征伐のための**小田原攻め**で先鋒を務める。秀吉からの国替えを命じられ、**江戸城**を居城とする。  
 1598 (慶長3年) 豊臣秀吉が病死。  
 1600 (慶長5年) 会津の上杉景勝の征伐へ向かう。**関ヶ原の戦い**で石田三成らを破る。  
 1603 (慶長8年) 征夷大将軍となり江戸幕府を開く。  
 1605 (慶長10年) 三男・秀忠に将軍職を譲り、自らは大御所となる。  
 1607 (慶長12年) **駿府城**を築き、隠居城とする。  
 1615 (慶長20年) **大坂夏の陣**で淀殿と秀頼が自害し、豊臣家が滅亡。  
 1616 (元和2年) 朝廷より太政大臣に任じられる。4月17日に駿府城で病死し、久能山(現・静岡県静岡市)に葬られる。

元和 1616 (元和2年) 朝廷より太政大臣に任じられる。4月17日に駿府城で病死し、久能山(現・静岡県静岡市)に葬られる。

元龜 1570 (元龜元年) 織田信長の援軍で**姉川の戦い**に出陣し、浅井・朝倉軍を破る。岡崎より浜松へ移り、**浜松城**を築いて本城とする。  
 武田信玄が遠江国・三河国へ侵攻。  
 1572 (元龜3年) **一言坂の戦い**(現・静岡県磐田市)、**二俣城の戦い**(現・浜松市天竜区)で武田軍に敗北。  
 1573 (元龜4年) **三方ヶ原の戦い**(現・浜松市北区)で武田室町幕府が滅亡。本多忠勝らに長篠城を攻めさせる。  
 1574 (天正2年) 次男の秀康が誕生。母親は側室の於万の方。  
 1575 (天正3年) 織田信長と連合して、**長篠の戦い**で武田勝頼に勝利。  
 1579 (天正7年) 三男の秀忠(後の二代将軍・徳川秀忠)が誕生。正室・築山殿を殺害。嫡男・信康自害。  
 1581 (天正9年) 武田方の高天神城(現・静岡県掛川市)を攻略し、遠江を完全に平定する。  
 1582 (天正10年) **甲州征伐**。武田氏の滅亡で駿河国を得る。  
 信長の死後、甲斐・信濃を奪い、5カ国の大名となる。



## 【特別編】

# 家康ゆかりのスポット



### 1 浜松八幡宮

浜松市中区八幡町2

大学から徒歩5分、緑が生い茂る鎮守の森に建つ八幡宮。家康は浜松入城以来、武家の守護神・浜松城鬼門の鎮守、鬼門降伏の氏神として信仰し、度々参拝したといわれます。境内には樹齢1000年を超える御神木があり、家康軍が三方ヶ原の戦いに敗れて武田軍から敗走する際、この木の幹にある洞穴に潜み、その時に瑞雲が立ち上ったという故事から「雲立の楠」と呼ばれています。



### 2 元城町東照宮(引間城跡)

浜松市中区元城町111-2

戦国時代に重要な拠点として数々の武将が城主となった引間(ひきま)城。家康もここを拠点として遠江地域を治めます。引間城を拡張して出来たのが浜松城です。引間城の跡地に建つのが元城町東照宮。社殿の扉や屋根には三つ葉葵の紋所があり、家康を祭神としているお社であることを示しています。



### 3 浜松城

浜松市中区元城町100-2

家康が浜松城で過ごしたのは29歳～45歳までの17年間。この間に大きな戦いに臨み、徳川300年の歴史の基盤を築きました。家康が駿府城(静岡市)に移ったあと、浜松城には代々の徳川家とゆかりの濃い譜代大名が城主となり、幕府の要職に登用された者も多いため、「出世城」と呼ばれています。



### 5 五社神社・諏訪神社

浜松市中区利町302-5

もともと浜松城内に祀られていた五社神社を、2代将軍秀忠の産土神として家康の命で現在の地に遷座。諏訪神社は3代将軍家光の命により現在の場所に移されました。徳川家からの崇敬が厚い2つの神社を1960年に1つの神社として合祀。朱色の拝殿が美しく、初詣や七五三の時期には多くの人を訪れます。



### 6 徳川秀忠 誕生の井戸

浜松市中区常盤町141-25

浜松生まれの2代将軍秀忠。産湯に使われた井戸水があったという伝承をもとに作られた井戸があります。遠州鉄道の遠州病院駅を下りてすぐ、交番の裏側に石碑と共に設置されています。



### 4 「若き日の徳川家康」銅像

浜松市中区元城町100-2

浜松城本丸のふもとに建つ家康像。浜松城に移り、今川領遠江への侵攻を開始したころの若き家康をイメージしています。右手に持っているのは、勝草(かちぐさ)と呼ばれる、戦に縁起のいい歯菜(しだ)の葉。周囲は桜の木に囲まれていて、お花見の時期には賑わいを見せます。



※参考 「徳川家康ゆかりの地 出世の街浜松」特設Webサイト ▶ <https://hamamatsu-ieyasu.com/> (公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー

## TOPIC 04 SUACに吹いた「スペインの風」 フラメンコのレクチャー&コンサートを開催

スペインの伝統芸能である「フラメンコ」をテーマに、室内楽演奏会2022「スペインの風—フラメンコの音楽と舞踊—」を開催しました。本学「室内楽演奏会」は学生と教員が企画を考え、準備と運営を行うイベントで、観たり聴いたりするだけでなく、出演者によるレクチャーが行われるという特色があります。ゲストには浜松市出身のフラメンコ舞踏家の大塚友美さんをはじめ、スペイン出身の歌手やフラメンコギターの演奏者、舞踏家など9名をお招きし、情熱的な舞踊で来場者を魅了しました。



## TOPIC 01 海外協定校の交換留学が再開しました

新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりとなった交換留学生の受入れ。10月から本学に迎え入れた8名の交換留学生と2名の研究生のため、留学生歓迎会を開催しました。歓迎会には、在学中の留学生23名と語学パートナーおよび留学生が所属するゼミの日本人学生、教職員が参加。ホユンソクさん(デザイン学科4年)によるウェルカムムービーの披露もあり、会場は大いに盛り上がりました。



本学から協定校への派遣も再開。留学生生活はWebサイトの「留学近況レポート」からご覧いただけます。  
<https://www.suac.ac.jp/forstudents/international/report/>



## TOPIC 05 「学生生活調査2022」を実施、 結果を公表しています

本学では、学生の生活の状況や、大学に対する意見・要望を把握し、大学の運営の改善に役立てるため、学生生活調査を3年に1度の頻度で実施しています。このたび最新の調査(2022年7月実施)の結果を大学WEBサイトで公表しました。学生やご家族の関心が高いテーマや、昨今の社会の変化に関するテーマを幅広くとりあげています。是非ご覧ください。



▲ 2022年度学生生活調査のポスター  
制作:小林萌々菜(デザイン学科3年)

### 学生生活調査2022 設問テーマ(一例)

下宿先の家賃/通学時間/アルバイトの時間や職種/仕送り額/  
成人年齢引き下げに関する意識/家庭内での家事・介護・育児の状況/  
パソコンの保有状況/サークルの活動状況/卒業後の進路など



Webサイトでの閲覧はこちら <https://www.suac.ac.jp/about/operation/disclosure/studentlifesurvey/>

### SUAC 公式サイト

Webサイトでも本学の教育・研究や  
在学生・卒業生の活躍など、  
トピックスをご紹介します。

<https://www.suac.ac.jp/topics/2022/>



### SUAC 公式Twitter

公式Twitterアカウントでは、  
日々の学内での出来事や  
イベントなどをご紹介します。  
学生記者も活躍しています。



@suac\_official

## TOPIC 02 「東アジア文化都市2023静岡県」の ロゴマークに本学学生の作品が採用されました



2023年における「東アジア文化都市」の国内都市として静岡県が選定されたことに伴い、本学学生を対象に行われたロゴマークの募集において、入江七海さん(デザイン学部3年)の作品が採用されました。日本の飾り結びのうち、結びつきの象徴として縁起が良いとされる「あげまき結び」をモチーフとしたデザインで、日中韓3国をイメージした3色を使ったロゴマーク。青色で富士山の形を、赤と黄色でハートの形を連想させます。

## TOPIC 03 国際文化学科 Webサイトがリニューアル!

国際文化学科が運営するWebサイトがリニューアルしました!留学やボランティアなどの国際交流や、ゼミ履修学生や教員からのコメント、カリキュラムの特徴、資格取得やスキルアップに取り組む学生などを紹介しています。

国際文化学科サイト  
<https://www.suac.ac.jp/kokusai/>





### 就職状況

2023年3月卒業予定者(現4年生)については、12月末時点での内定率が82.2%となっています。コロナウイルス感染拡大の影響による求人数の減少は昨年度から回復傾向にあり、今年度は昨年度には及びませんが一昨年度よりは上昇しています。引き続き、未内定の学生に対しては、志望の状況に応じた求人情報の提供等により最後まで支援を継続していきます。

また、2024年3月卒業予定者(現3年生)についても夏秋のインターンシップを経て、来年3月の採用活動解禁に向けての準備が進んでいます。

次年度以降も今年度と同様の状況を見込んでいますが、状況の変化に即したガイダンスやセミナーの実施と個別のきめ細やかな対応によって個々の力を引き出し、学生一人ひとりの志望が実現できるよう支援していきます。

## キャリア支援室より

Career Support Office



### 就職イベントの実施



#### 3年生との個人面談

6月から7月にかけて、キャリア支援室職員が3年生と個人面談を実施しました。

志望する進路(業種、職種、勤務地等)や就職活動に向けての準備状況等を確認し、目指す方向に応じた活動のポイントを説明したり、学生からの質問に答えたりしました。昨年までは10月以降に行っていた個人面談の時期を早めることで、夏休みを有効活用できるようアドバイスを行いました。また、この面談を機会に学生がキャリア支援室を気軽に利用して、それぞれの就職活動に役立ててもらえるように伝えることを心がけました。

#### 保護者会

11月6日(日)に、2・3年生の保護者の方を対象に保護者会を実施しました。

昨年度はオンラインでしたが、今回は碧風祭にあわせて学部別に対面での開催となりました。SUAC生の就職状況やキャリア支援室の支援内容の説明の後、文化政策学部は「採用動向と保護者の方の心構え」、デザイン学部は「デザイン職とは」というテーマで講演を行い、後半は卒業生と4年生によるパネルディスカッションで就職活動や入社後の様子についてお話を伺いました。また当日の様子は後日配信し、欠席された方にもご覧いただく機会を提供しました。



SUAC

世界

### 浜松で、世界で新たな環境で 頑張る学生たちを紹介!

2022年夏から再開した交流協定校への派遣と受入れ。SUACから世界へ、世界からSUACへ、新たな出会いが生まれています。今回は海外で学ぶSUAC生とSUACで学ぶ留学生の声をご紹介。充実した留学生活を送る様子が見えてきました!

湖西大学

(韓国)

SUAC

デザイン学科在籍  
キム ソンヒ さん

留学期間 2022年度後期



私はSUACでデザインを勉強しました。SUACでは様々な領域の美術を学ぶことができ、自由にアイデアを出すことができるので、楽しく授業を受けることができます。ここに来て基礎に戻ってみんなのためのデザインを学ぶことができ良かったです。みんなと一緒に未来のデザインを考えたこの時間を決して忘れません。



浜松の染物体験をしました

# Let's go global

番外編

浙大城市学院

(中国)

SUAC

国際文化学科在籍  
叶 天 さん

留学期間 2022年度後期～  
2023年度前期



SUACでは、国際文化学科に所属しています。一学期が過ぎた今でも、ゼミ形式はとても斬新なものだと思います。授業では、日本語の勉強はもちろん、ほかにも英韓欧などの地域の文化にも触れました。学生たちはここで自由に学び、遊び、ゼミで自由に討論し、学校内で自由にイベントを開くことができます。休日にはみんなで浜松を楽しんでいて、充実した留学生活を過ごしています。



合同ゼミで神社に行きました

SUAC

ポローニャ大学

(イタリア)

芸術文化学科4年  
土居 優莉 さん

留学期間 2022年9月～  
2023年7月



私は現在ポローニャ大学芸術学科で音楽史や現代アート、エンターテインメントについて学んでいます。慣れないイタリア語での講義ですが、挑戦する人を必ず受け入れてくれる温かい環境に恵まれ精一杯取り組んでいます。また、休日に友人たちとオペラを観たりハウスメイトと食事をしたりする時間はとても楽しく、イタリア語の練習にもなっています。



装飾が美しいポローニャ市立歌劇場

SUAC

コートダジュール大学

サステナブルデザインスクール

BESIGN(フランス)

デザイン学科4年  
田中 眞斗 さん

留学期間 2022年9月～  
2023年6月



眩しい太陽とカラリとした空気。BESIGNは南仏ニースにある学校です。UXデザイン・ブランディング理論・AI・気候変動・バイオミクリー・メガトレンドなどの講義を通して、サステナブルデザインを多角的な視点で学んでいます。演技の授業もあったり!私は生態系や服飾文化に興味があるので、新たに得た知識と自身の背景を絡めながらデザインの世界を深掘りしています。



同級生と恵方巻ホームパーティー

多文化・多言語  
教育研究センター  
特任講師



上村 明英

2018年から5年、出産育児休暇をのぞくと3年半の間、大変お世話になりました。最も記憶に残っているのは、やはり新型コロナウイルスの影響で授業が全てオンラインとなった2020年前期のことです。誰もいないキャンパスや、それまでの日常の名残を残して移転することとなった多文化・多言語教育研究センター(旧英語・中国語教育センター)の部屋を見て、呆然としたことを思い出します。活気を取り戻した本年度、多くの教職員の皆様や学生の皆さんに支えられて、またこのキャンパスで過ごせたことを心から感謝しています。ありがとうございました。来年度からも、非常勤としてお世話になります。今後ともよろしく願いいたします。

デザイン学部  
デザイン学科 准教授



天内 大樹

9年の単身赴任生活に終止符を打ち東京に戻りますが、大学受難の当世に文芸大への文句なしに去れるのは僥倖です。デザイン学部の1学科化を睨んだ採用だったと自覚しますが、両学部の不断の変化を支える学的基盤を残せていたらその企図は成功したと申し上げたいです。家庭の事情なくばもう少し……いえ、優れた先生方、意欲溢れる職員の皆様、才気に富む学生たち、期待を掛けて下さる学外の方々にスケッチの描き込みをお任せする潮時なのでしょう。とはいえ来年以降も非常勤で授業に参り、12階南側で親しんだ浜松の海と空に夢を描くお手伝いを続けます。最大の感謝とともに、今後ともご厚誼のほどよろしくお願い申し上げます。

文化政策学部  
芸術文化学科 准教授



井上 由里子

近江から遠江に通って早六年。かえりみて、ゆきあたりばったり。裏を返せば、数々のセレニディピティに恵まれた、と言えなくもない。西洋演劇(のはず)のゼミの卒論テーマは、オペラからBLまで。若い人から多くを学んだ。連絡をくれる卒業生や修了生がただただ可愛い。フランス語授業の《Aux Champs-Élysées》唱和も忘れがたい。外国籍の学生のいるクラスでは留学時代が偲ばれた。そして、SPAC、ぶちまき、クリエイティブサポートレッツとの出会い。アナログな演劇ゆえに出来ることを探り続けた。皆さまの温かさに支えられた6年だった。遠州の朗らかな風土にも感謝。

多文化・多言語教育研究センター 特任講師 **Nicholas James Cooper**

I first moved to Hamamatsu and started at SUAC the same year that COVID-19 began. Of course, I had no idea what was coming when I first arrived. The world changed, and it changed suddenly. In a sense, the world got smaller. International travel and studying abroad were no longer options. Even travelling outside of Shizuoka Prefecture was not recommended. And yet, our world was smaller not only because of the restrictions, but because everyone was in the

same battle. And now, at the beginning of 2023, the world is opening up once more. Exchange students are returning, study abroad programs have commenced. More and more opportunities await. The world has become smaller, but the horizon is still as vast as ever. Whether you are still a student, have graduated, have started a career, never forget that knowledge and learning should not be a destination you arrive at, but a journey that never ends.



静岡文化芸術大学基金  
(修学支援事業・教育研究支援)  
寄附者ご芳名

寄附金額 **1,964,000円** (内訳:修学支援事業82,000円、教育研究支援1,882,000円)

寄附者ご芳名  
(順不同、敬称略)【個人】

藤枝智 下位智 矢ヶ崎満郎 下堂前正彦 松田尚純 高崎雅彦 新井巧  
星原守雄 渡辺雅司 大橋怜奈 加藤孝 高橋玲子 尾鷲愛子 後藤伸二  
岡田尚之 杉山秀雄 小久保元弘 横山俊夫 熊田洋之 大塚晃司 弓削徑吾  
永井良和 谷野史織 三浦浩子

※ご芳名の掲載を希望されなかった方(31名)を除いて掲載しております

ご寄附を頂戴した方々のご厚意に心から感謝を申し上げますとともに、  
謹んでご芳名を掲載させていただきます。今後、学生が行う海外留学  
や論文執筆のための図書購入に充てさせていただきます。皆様には引  
続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



基金について

文化政策学部 文化政策学科 教授

森 俊太



本学在職期間

2000年4月 ▶ 2023年3月



2016年度  
オープンキャンパスで  
学生が描いてくれた  
似顔絵

2000年の開学時から22年間、社会理論、変動論、調査法、排除と包摂、人権について授業をしてきました。学部と院生の120本ほどの卒論・修論に、査読も加えると200本以上の論文を読みコメントしました。ゼミでは事前提出の質問、意見、助言のしくみを使いました。名前は忘れても、ほぼ全員の論文テーマと顔は覚えています。ゼミ生以外にも、学科を超えて多くの学生と出会えてよかったです。教職員の方々とは、様々な活動を共に取り組むことができて、ありがたく思います。コロナ禍の下では、お菓子をつまみながら雑談をする機会がなくなり残念でした。また、ここ数年は大学運営の仕事が増え、卒業生と話す機会があまり持てませんでしたが、今後はやや余裕ができるだろうと期待しています。

文化政策学部 芸術文化学科 教授

梅若 猶彦



本学在職期間

2000年4月 ▶ 2023年3月



静岡文化芸術大学  
特別公開講座  
「薪能」(平成17年)  
能「安宅」で演じる  
梅若先生

今年の3月末をもちまして定年退職いたします。先生方、職員のみなさま、至らない私でしたが、ご理解とご指導を賜ったことで何とか無事にここまで参りました。僕の授業を履修してくれた全ての卒業生のみなさん、支離滅裂な授業もあったかと思えます。それを文句も言わずに受講してくれました。2001年から2022年まで静岡文化芸術大学薪能のプロジェクチームに関わってくれた卒業生、在校生のみなさん、夏休みを返上しての薪能運営でした。大きな声では言えませんが、10年程前までは、本番の一週間前になると北館4階の薪能部屋での徹夜作業が当たり前だったようですね。あるご両親は「薪能か、しょうがないな…」と言っておられたと。本当に疲労困憊だったと思います。22年間、薪能に出演した多くのシテ方や三役(ワキ方、狂言方、囃子方を含む累計400人以上)から、学生チームへのクレームは一度もありませんでした。これは驚くべきことです。例年、運営チームの対応は丁寧で、明るく、それでいて真剣で、僕は本番公演の日に、運営チームの私語、仲間でお喋りしているのを聞いた事はありません。今は情報室に異動されましたが、薪能担当であられた宮野 哲さん、学生チームへの指導をありがとうございました。最後になりましたが、横山俊夫学長に深く感謝申し上げます。

デザイン学部 デザイン学科 教授

宮田 圭介



本学在職期間

2004年4月 ▶ 2023年3月



2014年度  
「キネマテクス」の  
期末公開コンペの  
様子

企業の研究所で21年間勤務した後、2004年に本学デザイン学部へ赴任しました。技術造形学科、メディア造形学科、デザインフィロソフィー領域、インタラクション領域において、さまざまな学生と交流することができて、刺激的な19年間の教員生活でした。卓球部顧問という名目で、両学部の部員と卓球することができたことも良い思い出です。肝心の大学の教育研究にどこまで貢献できたのかは疑問ですが、教職員のサポートのおかげで、職務を全うすることができて感謝しております。発達障害者の学習支援研究はライフワークとして継続していきますので、退職後もご支援くださるようお願いいたします。どうもありがとうございました。